

科目責任者 池上 洋二 (薬物体内動態学教室)

■ 教育目的

主な疾患の病態生理の概略を把握し、病態に即した薬物治療選択の組み立てが理解できる能力を養うために、主要な薬物について薬理作用、病態が体内動態におよぼす影響、重要な有害事象などについて、マルチメディアを活用し学習する。

■ 学習到達目標

1. 代表的な機能検査を列挙し、その検査値の異常から推測される主な疾患を挙げることができる。
2. 内分泌・代謝疾患、悪性腫瘍、造血管疾患、感染症、腎疾患、肝疾患および精神疾患に関して、病態生理の概略を把握し、病態に即した薬物治療の組み立てを理解する。
 - 2-1) 上記疾患の病態生理を説明できる。
 - 2-2) 上記疾患の治療ガイドラインを読み理解できる。
 - 2-3) 上記疾患の適切な薬物治療および使用上の注意を薬学的観点から説明できる。

■ 準備学習（予習・復習）

予習：各項目に関して、講義用レジュメ・参考書に目を通すことにより、授業で行う臨床検査項目や各疾患をイメージしておく。

復習：講義用レジュメ・参考書、講義ノートを参考にして重要事項の理解に努める。

■ 授業内容

No.	項目	授業内容	SBO コード
1	薬物治療学要論 I & II 序論、臨床検査	薬物治療学要論 I & II 序論、症候と臨床検査値（肝臓機能検査、腎臓機能検査、呼吸機能検査、心臓機能検査、血液および血液凝固検査、内分泌・代謝疾患に関する検査、染時および炎症時の臨床検査、悪性腫瘍に関する臨床検査、尿・便検査、血液ガス分析、バイタルサイン）	C14 (1) -1~2
2	内分泌・代謝疾患 1	脳下垂体ホルモン異常、甲状腺疾患、副甲状腺疾患、副腎疾患	C14 (3) -4
3	内分泌・代謝疾患 2	糖尿病とその合併症総論、I 型糖尿病、インスリン治療	C14 (3) -5-1
4	内分泌・代謝疾患 3	II 型糖尿病、経口糖尿病薬、メタボリック症候群	C14 (3) -5-1
5	内分泌・代謝疾患 4	骨粗鬆症、高尿酸血症	C14 (4) -5-2 C14 (3) -5-3
6	悪性腫瘍 1	悪性腫瘍総論、化学療法薬総論	C14 (5) -7~9
7	悪性腫瘍 2	食道がん、胃がん、その他の消化器がん	C14 (2) -4-6
8	悪性腫瘍 3	肺がん、乳がん、疼痛管理（WHO3 段階徐痛ラダー）序論	C14 (3) -3-3 C14 (4) -8
9	造血管疾患	白血病、骨髄移植、化学療法薬各論	C14 (2) -3-1、3、5
10	感染症 1	感染症総論、抗菌薬各論、細菌感染症	C14 (5) -1、2、6
11	感染症 2	ウイルス・真菌感染症、性行為感染症	C14 (5) -3~5
12	腎疾患 1	急性・慢性腎不全、血液透析・腹膜透析、腎移植	C14 (3) -1-1、2
13	腎疾患 2	ネフローゼ症候群、全身疾患と腎、薬剤性腎疾患	C14 (3) -1-3、4
14	肝疾患	ウイルス性肝炎、肝硬変	C14 (2) -4-4、6
15	精神疾患	気分障害、統合失調症、神経症	C14 (4) -1-1~4

■ 授業分担者

No.1、3～5、7、8：池上 洋二、No.2：植沢 芳広、No.6：遠藤 一司、No.9～15：佐野 和美

■ 成績評価方法

期末試験（80%）および出席状況・授業態度（20%）で総合評価を行う。

■ 教科書

講義プリント、「今日の診療」（MY-PORT > 医療人 GP サイト内）

■ 参考書

『図解 薬理学 第2版』 越前 宏俊 著（医学書院）

『今日の治療薬 2013』 浦部 晶夫・島田 和幸・川合 眞一 編 (南江堂)
『薬剤師のための疾患別薬物治療法 I～V』 日本医療薬学会 編 (南江堂)
『標準医療薬学 薬物治療学』 越前 宏俊・鈴木 考 編 (医学書院)
『今日の治療指針 2013』 山口 徹・北原 光夫・福井 次矢 編 (医学書院)